

令和7年度

徳島県立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

校長

阿部 憲市

学力向上推進員

安部 恭美

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○真面目で、授業に前向きに取り組むので、授業の内容は理解できている。 ○タブレット端末の操作に慣れてきている。 ●自分で復習する習慣が身に付いておらず、知識が定着していない生徒がいる。	・知識や技能を身に付けることのよさがわかり、自学・復習できる自律的な学習習慣が身に付いている。 ・ICTを活用でき、自分に必要な情報を収集・選択することができる。	・小テスト・単元テスト等を行い、「できる」を実感させるとともに、復習の仕方を身に付けさせる。 ・質問タイムで、わからないところを質問できるようにする。 ・ICTの活用の仕方を教える。 ・タブレット端末を活用し、自分のペースで、くり返し学習に取り組めるようにする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○タブレット端末を使用して、自分で工夫しながら表現できる。 ○話し合いで意見を交換することに進んで参加できる。 ●主体的に考え行動したり、互いの意見から考えを深めたりすることが苦手な生徒が多い。 ●知識の関連付けが苦手で、筋道が立てられない。	・探究活動を通して、課題の設定をしたり、必要な情報を判断したり、自分の考えを自分なりに工夫して表現できたりする。 ・話し合い活動において、互いの考えを尊重し、考えを比較したり、疑問点を質問し合ったりして、考えを深めることができる。	・探究学習の過程の流れについて教員間で共有し、フォーマットをつくるなどして、流れを理解させる。 ・ICTを活用して、発表等の言語活動を行う。また、自分と他者との意見を比較・検討し、考えを深めさせる。 ・知的好奇心を喚起させ、他者とのやりとりを通して思考が深まる手立てを仕組む。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて地道に学習に取り組めており、学ぼうとする意欲が高い生徒も多い。 ●決められた課題には取り組めるが、自分の弱点補強のために学習に取り組むことには課題がある。学習時間が短く、課題を出せない生徒が増えている。	・目標や見通しをもって、学習に取り組むことができる。 ・自分に合った学習方法を理解し、自分のペースで学習に取り組むことができる。	・目標や学習計画を立て、日々の学習を至誠ノートに記録することで、自らの取り組みについて振り返らせる。 ・中高一貫教育校の特色を生かし、総合的な学習の時間を中心として他学年の生徒や高校生との交流を図るなど、進路指導を充実させ、将来の展望をもたせる。 ・さまざまな学習方法を示し、生徒が自分に合った方法を試すことができるようにする。			